

[講演要旨] 旧湖岸線高度からみた堅田断層の活動履歴

小松原琢¹・水野清秀¹・松山紀香²・細矢卓志³・徳田博明³・藤根久⁴

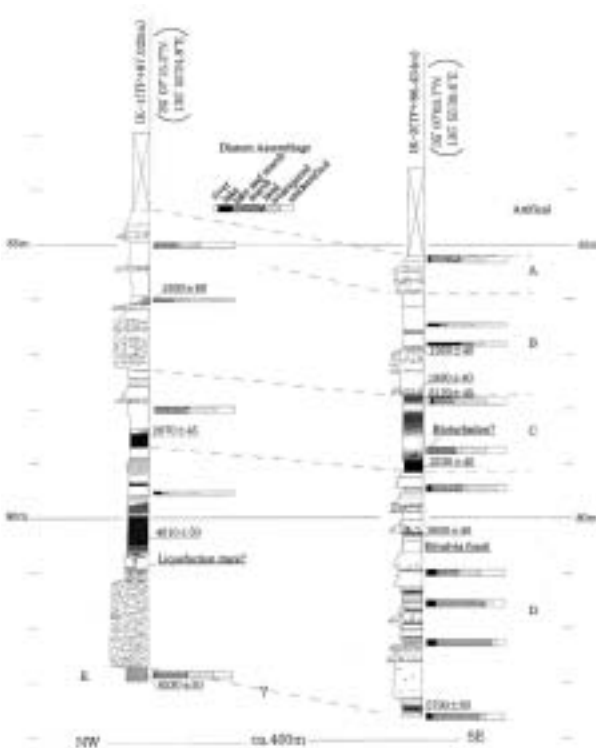
¹産業技術総合研究所 ²有限会社ジ・アール ³中央開発株式会社 ⁴株式会社パレオ・ラボ

琵琶湖西岸活断層系南部・堅田断層の活動履歴を解明するため、琵琶湖南部の東西両岸における湖水位変化を比較した。

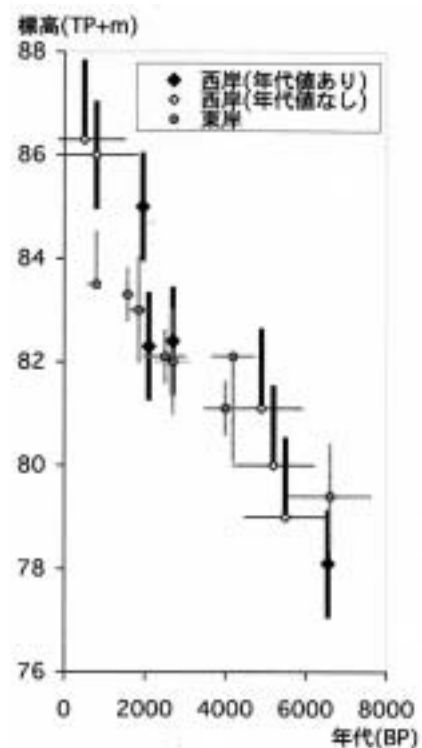
琵琶湖西岸の湖岸線高度は、堅田内湖近傍のボーリングコアの珪藻分析結果(第1図)より推定した。それにより約3600~6500BPと約2000~2100BPに水位が上昇したこと、約2000~2100BPにおける水位は84m以上(現在の湖水位は84.4m)である可能性が高いこと、が明らかになった。東岸の湖岸線高度は赤野井湾遺跡を中心とする遺跡調査(濱,1994,1998)に基づいてまとめた。

両岸の湖岸線高度変化を比較すると、1)約6500BP以降西岸を沈降させる地殻変動が生じたこと、2)約2000~2100BPに西岸を沈降させる変動が生じた可能性がある、ことが明らかと言える。また3)寛文二(1662)年地震時に特に大きく西岸が沈降した証拠は得られなかった。

しかし、両岸の湖岸線高度変化を異なる手法により復元していること、約2000~2100BPにおける水位変動が東岸で認められないこと、といった問題が残されている。



第1図 堅田地区ボーリングの柱状図と珪藻分析結果



第2図 南湖両岸の水位変動の概要